

公益社団法人日本包装技術協会 2025年度 活 動 方 針

わが国を取り巻く経済情勢は、光熱費、物流費、原料価格等の上昇に加えて、国際情勢の不透明感も加わり、企業経営においては慎重な判断が求められている。

また、持続可能な社会の実現に向け、一企業はもとより社会全体での取り組みが強く求められている。

さらに、国内においては企業の健全な成長を脅かしかねない、現場での人手不足の問題も年を追って深刻さを増して来ている。

新型コロナウイルスによる行動制限が解除され2年が経過した今日、協会活動において会員相互の新たな情報交換の場の提供を求める声も多く聞かれるようになって来ている。

当会ではこれらの状況を踏まえ、環境問題など包装を取り巻く国内外の最新情報を収集・提供するとともに、一般社会に向けて、包装産業の周知を行うことにより、人材の確保に繋がる活動を行う必要がある。

これらにより、次の事項を重点とした諸活動を展開する。

1. 国内外包装情報の収集・発信、並びに人的交流の充実

包装の改善・合理化事例、環境問題や新技術の紹介、更には海外包装動向など、当会の国際ネットワークを駆使し、会員に対し情報提供を行う。

また、同業社並びに異業種で構成される当会会員構成の特性を活かし、会員相互による情報交換の場の充実を図ることにより、新たなネットワーク作りの支援を行う。

2. 若年層を中心とした包装産業への就労機会の創出

国内において包装産業の周知を図ることにより企業での人材確保に繋げる。

特に、企業の成長に欠かせない若年層に対して、包装業界への理解が深まる諸活動を会員企業協力のもと展開する。

3. 継続的な包装標準化への取り組み

国内包装業界の健全な発展に向け、JIS規格の制定・改訂作業を会員代表企業並びに各界専門家の協力を仰ぎ継続的に審議を行う。

また、ISOにおいては、ISO/TC122(包装)の議長及び国際幹事国として国内意見の取り纏め、並びにISO事務局への提案のほか、他国からの提案へのコメントを確実に行之、国際標準化やルール作りに向けた取り組みを行う。

4. 暮らしの包装商品展 2025 開催による消費者への包装業界の取り組みの告知

包装の役割と包装業界の取り組みを消費者に啓蒙することを目的として1997年より隔年で開催を続ける暮らしの包装商品展は今回で15回目を迎える。

包装の役割、機能の啓蒙のほか、各社の環境問題への取り組み等を紹介し、包装への理解を深めるための活動を展開する。

2025年度(令和7年度) 事業計画

1. 研修、育成事業、交流事業、普及啓発事業（公益目的事業1）

<研修、育成事業>

研修事業についてはカリキュラム内容・開催時期等により、開催方式を Web オンラインによるものと、実地集合対面開催するもの、あるいはハイブリッドで開催するなど、参加者の安全・安心を第一に考えた研修活動を展開していく。

各種包装人材育成事業の中の包装管理士講座は本年で 60 回目の開講を迎える。講義形態は社会状況やニーズから座学はオンラインで実施し、合宿は対面で開講する。

なお、出願受付は地域別（東京、名古屋、大阪、福岡、仙台、札幌）にて行う。

包装分野においてトップレベルの内容で実施されている包装専士講座は、引き続き輸送包装コース、食品包装コース、包装材料コース及び医薬品包装コースの 4 コースで合計 45 名にて実施する。

包装に携わる人々に求められる知識や技術を提供する人材育成コースと、内外の最新情報の提供を目的として実施されているセミナーは、昨年に引き続きオンラインと対面のスタイルを催事内容に合わせて選択し開催する。それぞれ時代に適合した内容が多いが、昨今の環境問題を背景とした持続可能な社会構築を目指した包装及び関連技術の開発動向や、生活者にとっての安全・安心そして利便性などを目指し開発された包装商品の事例等を主なテーマに本年も実施する。又、これらの事業は支部別に地域のニーズに合わせて開催しているが、地域のニーズを盛り込んだ内容となるよう取り組んでいく。

なお、すべての内容は当会のホームページで一般公開されており、包装に関心を持つ一般の方々も参加が可能である。

1) 第60期包装管理士講座 本部・支部 6月開講～9月終講（うち13日間）

開催地：集合・合宿研修 ロワジールホテル豊橋（コース別に対面で実施）

一般講義 受講者の職場や自宅（オンライン受講希望者）

AP日本橋（対面受講希望者）

定員：445名

地域別募集枠 東京 220名 大阪 100名

名古屋 65名 福岡 30名

仙台 15名 札幌 15名

合格証書授与式（地域別開催） 10月～11月

東京、大阪、名古屋、福岡、仙台、札幌

2) 2025年度包装専士講座 東京本部

6月開講～3月終講 共通教科4日、専門教科10日

開催地：合 宿 湘南国際村センター

コース別座学 東京 (JPI 会議室・外部会議室)

定 員：45名 (4コース合計)

(1) 第38期輸送包装コース

(2) 第39期食品包装コース

(3) 第38期包装材料コース

(4) 第37期医薬品包装コース

3) 研究大会

(1) 第63回全日本包装技術研究大会 仙台大会 本部・支部

12月18日(木)～19日(金)

開催地：仙台国際センター(仙台市)

定 員：250名

4) 講習会(無料)

(1) JPI WEB フォーラム 本部・支部 4月～3月 年35回予定

オンライン開催 定員：300名

配信予定：東京本部15本 関西支部8本 中部支部8本

西日本支部2本 東北支部2本

(2) その他講習会

東京本部

包装情報ステーション

年2回

オンライン開催

中部支部

包装技術講習会

11月(予定)

ウインクあいち

西日本支部

2025年度日本包装技術協会総会説明会特別講演(2講演予定)

8月

西鉄イン福岡

輸送・生活者包装研究会

10月

(JPI WEB フォーラムでの対応に変更)

北海道支部

包装懇話会

11月

東北支部

包装研究講演会

3月

5) 研修コース (有料)

東京本部

(1) 第31回包装新人研修コース	4月	JPI 会議室	定員30名
(2) 第58回包装基礎コース	5月	外部会場	定員90名
(3) 第3回循環型包装コース	9月	オンライン	定員80名
(4) 第47回段ボール包装設計コース	2月	JPI 会議室	定員30名

関西支部

(1) 第32回包装基礎コース	5月14日(水)～16日(金)	ハートンホテル北梅田	
(2) 第19回緩衝包装設計実践コース	11月7日(金)	大阪産業技術研究所	
(3) 第52回段ボール包装設計実習コース	11月13日(木)～14日(金)	ハートンホテル北梅田・アイロップ(株)	

中部支部

(1) 2025年度包装設計の基礎講座	5月15日(木)～16日(金)	愛知県技術開発交流センター	
(2) 第42回フレキシブルパッケージコース	日程調整中		
(3) 第16回食品包装コース	日程調整中		

6) セミナー、シンポジウム (有料)

東京本部

(1) 化粧品包装セミナー	7月	東京都内会議室又は Web
(2) 包装材料セミナー	1月	東京都内会議室又は Web
(3) 医薬品包装セミナー	3月	東京都内会議室又は Web
(4) 包装近未来シンポジウム (2024年度延期分)	4月	東京都内会議室又は Web
(5) 包装近未来シンポジウム	3月	東京都内会議室又は Web

7) 講演会・発表会

東京本部

(1) 2025パッケージングフォーラム	10月	webにて開催
----------------------	-----	---------

中部支部

(1) 2025日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会	12月(予定)	ウインクあいち
(2) 第65回包装技術研究大会中部大会	2月(予定)	ウインクあいち

西日本支部

(1) 包装事例研究発表会(包装管理士合格者)	10月29日(水)	西鉄イン福岡
(2) 包装事例研究発表会(2025日本パッケージングコンテスト入賞作品発表会)		
西日本支部・東北支部共催にて	12月	オンライン開催

北海道支部

(1) 第60期包装管理士合格者レポート発表	11月
(2) 新春研究会	1月

東北支部

(1) 東北支部包装技術研究発表大会	11月6日(木)	江陽グランドホテル
(2) 新春講演会	1月	江陽グランドホテル

8) 包装懇話会 (年間登録メンバー制)

東京本部

- | | |
|------------------|--------------|
| (1) 食品・流通包装懇話会 | 7月・9月・12月・2月 |
| (2) 医薬品包装懇話会 | 6月・9月・11月・2月 |
| (3) パッケージデザイン懇話会 | 5月・8月・11月・2月 |
| (4) 輸送包装懇話会 | 6月・9月・11月・2月 |

関西支部

- | | |
|----------------|---------------------|
| (1) 生活者包装研究懇談会 | 年3回予定 (内 見学会1回) 検討中 |
|----------------|---------------------|

<交流事業>

本年度は昨年に続き国内、海外ともに新型コロナウイルス感染症の影響下にあるため、当面の間はオンライン開催可能な会議会合を行いつつ、実地見学と対面会合は各地の事態収束状況に応じて受入先より実施応諾の得られたものから、漸次開催する。

1) 国内事業

(1) 見学会

- | | | |
|--------|------------|--------------------------|
| ①東京本部 | 関東圏企業・施設 | 年3回予定 |
| ②関西支部 | 関西圏企業・施設 | 年1回予定 |
| ③中部支部 | 東海地方及び隣接地域 | 9～10月(見学会)・3月(包装研究懇話会)予定 |
| ④西日本支部 | 九州及び西中国地方 | 年2回予定 |
| ⑤北海道支部 | 北海道内企業 | 10月予定 |
| ⑥東北支部 | 東北地方企業 | 年1回予定 |

2) 海外交流事業 (公益目的事業 1) 東京本部

(1) アジア包装連盟 (APF) との連携

- ①APF 戦略会議： 6月 (スリランカ・コロンボ)
- ②理事会、総会、アジアスター審査及び表彰式： 10月 (シンガポール)
- ③アジアスター2025 オンライン審査

(2) 世界包装機構 (WPO) との連携

- ①前期行事： 5月最終週 (イタリア・ミラノ)
前期理事会、ワールドスター2025 表彰式、ワーキンググループ等
- ②後期行事： 11月 (開催地は未定)
後期理事会、コンフェレンス等
- ③ワールドスター2026 オンライン審査

(3) 国際包装研究機関連絡会 (IAPRI) との連携

(4) 包装視察団の派遣

2025年6月11日(水)～14日(土)にタイ・バンコクにて開催される国際包装展 PROPAK ASIA に包装視察団派遣を計画中。

(5) 海外からの来日包装関係者の受入れ

ミシガン州立大学包装学部 学生訪日研修計画 (5月中旬予定) への協力
日本包装技術協会では研修先の選定等、サポートを行う。

＜普及啓発事業＞ 東京本部

本事業の中心となる日本パッケージングコンテストは、経済産業省、日本商工会議所、主婦連合会等の後援のもとに毎年開催されている。一般に対してもホームページからの募集を行っており参加が可能である。本年度も大学、公的機関及び消費者団体の方々に構成された審査員によって選ばれる入賞製品をグッドパッケージとして（最高賞は経済産業大臣賞）「暮らしの包装商品展 2025」の会場において一般公開する。昨年度までと同じ内容で開催し選ばれたパッケージはすべてその特長が写真付きで広報される。

木下賞は、授与された包装製品がその年の最高技術水準にあることもあり、最近では、これらの包装には生活の向上や環境負荷の低減等の意味から消費者が大変関心を示している。

本年度も審査員は官学及び民間からの有識者で構成され、応募はホームページを通して一般にも公開されるので誰でも無料で応募できるが、審査基準は大変高くまた厳しいものとなっている。

受賞作品は月刊機関誌「包装技術」に特集で掲載されるほか、「暮らしの包装商品展 2025」で一般公開する。

- 1) 第49回木下賞 審査選考：5月12日（月）
- 2) 2025日本パッケージングコンテスト 審査選考：6月6日（金） 表彰式：8月
- 3) 2025グッドパッケージング展（暮らしの包装商品展 2025内）10月3日（金）～4日（土）

2. 展示会事業（公益目的事業 2） 東京本部

1) 暮らしの包装商品展 2025

暮らしの包装商品展は、包装が果たす役割や重要性について、理解を深めていただくことを目的とする生活者を対象とした普及啓発事業である。国民生活における包装の役割や最新の技術動向、各企業での取り組み、そして循環型社会の構築に向けて、生活者と包装関係者が共に集い、より良い包装について共に考える場として、毎回多くの生活者が参加し盛況に開催している。

今回は日本一の広さを誇る商業施設「イオンレイクタウン」に開催場所を移し、「包装でみんなの生活を豊かに！～これから包装ができること～」をテーマに、出展社募集など開催に向け準備を進めていく。

暮らしの包装商品展 2025 開催概要

と き：2025年10月3日（金）・4日（土） 2日間

ところ：イオンレイクタウン Kaze 光の広場

出展募集定数：8社（定数となり次第、締切）

出展申込締切：2025年4月25日（金）

入 場：一般公開・入場無料 ※入場登録はありません

展示企画：2025グッドパッケージング展 2025（第49回）木下賞受賞作品展 クイズラリー他

2) TOKYO PACK 2026 (2026 東京国際包装展) の開催準備

隔年で開催する TOKYO PACK 2026 は、来年 10 月 14 日 (水) ～16 日 (金) の 3 日間、東京ビッグサイトにて開催する。今春に実行委員会を発足させ、今まで以上に技術振興、技術開発、人的交流を促進させ、また、本展が包装技術の最新情報を発信するプラットフォームとして機能するよう、国際的な視野にたち、時代のニーズをいち早くキャッチし、包装産業の発展に寄与できるよう準備を進める。あわせて、企画展示や情報提供など、全国の会員及び関係各位、関連機関との連携のもとに準備を進めていく。

今回は東京ビッグサイト大規模改修により展示面積が大幅に減少するためことから、早々に定数に達する場合もあるため、お早めに出展申込みいただくよう告知を進めていく。

本年 9 月 24 日 (水) より公式ホームページにて出展社の募集受付を開始する。

名 称 : TOKYO PACK 2026 — 2026 東京国際包装展

Tokyo International Packaging Exhibition 2026

会 期 : 2026 年 10 月 14 日 (水) ～16 日 (金) 10:00～17:00

会 場 : 東京ビッグサイト(東京国際展示場) 東 1～3、7,8 ホール

特別協力 : 一般社団法人日本包装機械工業会

後 援 : 経済産業省 他 7 団体 (申請予定)

協 賛 : 包装関連団体 100 団体

出展内容 : 包装資材・容器 包装機械 印刷・包材加工機械 食品・医薬品・クリーン関連機材
検査・計測・環境関連機材 包装デザイン・サービス 次世代テクノロジー
包装・物流ソリューション 海外出展

併催行事 : 2026 グッドパッケージング展 2026(第 50 回)木下賞受賞作品展

出展社による最新包装技術セミナー PACKAGE DESIGN PAVILION 2026

3) アジア・ヨーロッパ主要各国の国際包装展への TOKYO PACK PR ブース参加

各国の今後の開催状況などを鑑み検討する。

3. 調査研究事業 (公益目的事業 3) 東京本部

現在、日本は、ISO/TC 122(包装)の議長及び、国際幹事国を引受けており、当協会は、包装分野の国内審議団体の他に、ISO規格の開発・改廃を進め、これらを通じて国際間の相互理解促進に寄与している。2022 年度からの事業年度(事業年度は 3 年間)では『戦略的国際標準化加速事業』テーマ名: 適正包装に関する国際標準化」事業を推進している。今年度は 2024 年度に開始した日本提案による「ISO/11156」を始めとするにアクセシブルデザイン 4 規格の見直しをイギリスと共同して継続する。また、「ISO/TR 18607: ISO 18600 規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」の開発も継続して進めている。

これら開発事業以外にも国際幹事国として ISO/TC 122(包装)における様々な規格開発の支援を行っている。一方、「包装のアクセシブルデザイン」は、日本から提案した 4 つの国際規格及び JIS 規格の開発は終了し、「包装のアクセシブルデザイン」の個別規格として、JIS 新規テーマ 2 件の規格化の活動を行い、2024 年には規格を発行する。

また、包装は国民の日常生活に深く係っており、絶えず、その標準化を見直し、生活し易い環境を整えることが求められていることから、本年度も JIS 規格の見直し作業も精力的に進める。

1) ISO/TC 122 (包装)の議長・国際幹事国(事務局)としての活動

ISO/TC 122 (包装)は、現在88件の規格を発行しており、Pメンバー31か国、Oメンバー48か国で日本が議長及び幹事国を務めている。また、TC 122の傘下には、2つのSC(サブ委員会)と12のWG(作業部会)を擁している。現在、活動中のプロジェクトは、10件である。

2025年度は、6月にチェコ・プラハでのISO/TC 122総会の開催が予定されており、議長及び幹事国として各SC、WGにも働きかけ、開催準備を進める。

また、新規規格及び定期見直しに関わる日本及び海外からの提案、SC・WGの議長、コンビナの選任及びこれらの案件等への投票に対しては国内対策委員会に配信し、我が国としての意見をまとめ、投票とコメントの提出を行うとともに、随時開催される国際会議へ参加を促す。これらを情報共有及び審議のため、国内対策委員会を設け、委員会を開催する。

2) ISO/TC 122 (包装)の国内審議団体としての調査研究及び標準開発活動

(1) 包装全般の国際規格に関する調査研究

(2) 「国際標準開発」に対する調査研究

日本新規提案

①ISO/TR18607:「ISO18600 規格群に基づく包装の環境配慮設計ガイドブック」の国際標準の開発

②ISO 11156:「アクセシブルデザイン一般要求事項」および関連する3規格の見直し。

2023年度総会での指示により4規格を1規格に整理し、新たなデータを追加して、使い勝手の向上と有効性を高める。英国と協力して提案、開発を進める。

海外提案対応

③ISO 4924: 宅配便包装におけるエコデザインの原則と適用(中国新規提案)への対応

④ISO 17508: 危険物輸送包装ーポリエチレン、フッ素化ポリエチレン及び
共押出プラスチックの適合性試験(ドイツ新規提案)への対応

⑤ISO 16103: 危険物輸送包装ーリサイクルプラスチック材料(改正ドイツ提案への対応)

(3) 5年を経過したISO規格の定期見直し投票(適宜)

3) JIS制定・改正に関する調査研究

(1) 包装に関するJISの原案作成事業の実施

①JIS S 0021-5「包装ーアクセシブルデザインー第5部: 集合包装用段ボール箱の重量に関する情報の表示」の制定

②JIS S 0021-6「包装ーアクセシブルデザインー第6部: 詰替え容器」の制定

③JIS Z 0241「包装ー温度制御が必要な小包輸送に用いる包装容器の保冷性能試験方法」の制定

(2) 5年経過したJISの定期見直し

上記標準化開発、調査研究は、政府関連機関からの委託事業又は日本規格協会の公募事業である。2024年度のJIS定期見直しでJIS Z 0203:包装貨物ー試験の前処置の元となるISO 2233: Packaging -- Complete, filled transport packages and unit loads -- Conditioning for testingが改定されており、温度と湿度の値が一部異なることが判明し、2024年11月に改正案作成委員会を立ち上げた。分科会で改正案を作成し、本委員会で確認と改正作業を進める。2025年8月には最終案を作成し提出の予定である。

4) 2024 年の日本の包装産業出荷統計に関する調査研究

日本の包装産業出荷統計に関する調査研究は、昭和 38 年の創立以来欠かすことなく継続しており、本年度も 2024 年の統計を刊行する。これは、機関誌「包装技術」への掲載(2025 年 7 月号予定)、また当会 WEB サイトにて公表される。

5) 包装教育に関する研究・調査

4. 出版関連事業 (収益事業) 東京本部

月刊機関誌「包装技術」は、包装専門家で構成された編集委員会によって企画が行われており、創立以来、欠号なく刊行されている。本年度も引続き一層の内容の充実を図りながら月刊機関誌として毎月刊行する。本誌は、包装技術及び関連情報が中心となっているが、当会事業の案内や調査研究の成果、さらに新会員の紹介等幅広い内容を掲載し公開している。本事業は収益事業として、一般による購読収入と広告収入によって進められている。本年度も引続き編集委員会主導のもとで編集に当たる。

また、「包装技術便覧」を 1995 年以来の全面改訂版(第 5 版)として 2019 年 2 月に発刊、2022 年 10 月には創立 60 周年を記念し『「包装用語 早わかり」包装用語辞典』を発刊、2024 年 10 月には 2016 年以来の全面改訂版として「包装...知っとく知識 改訂 2 版」を発刊したことを受け、今後も、包装産業界の人材教育、研究開発の一助として広報並びに販売を行っていく。

- (1) 機関誌「包装技術」の刊行 月刊(毎月 1 日発行)
- (2) 「包装技術便覧」の販売
- (3) 『「包装用語 早わかり」包装用語辞典』の販売
- (4) 「包装...知っとく知識 改訂 2 版」の販売
- (5) 「Q&A 容器包装規制基準の手引き」誌の編纂
- (6) 機関誌「包装技術」の電子データアーカイブ化

第 2. 諸 会 議

- 1) 理事会 5 月 19 日(月)・6 月 13 日(金)・11 月 27 日(木)・3 月 如水会館
- 2) 常務理事会 5 月 13 日(火)・10 月 22 日(水) Web 会議・JPI 会議室
- 3) 全国支部連絡会 5 月・12 月
- 4) 本部・支部諸会議 本支部単位で運営委員会・講習会委員会等を逐次開催
 - ①東京本部 (研修教育) 包装専士講座研修委員会、包装管理士講座研修委員会、WEB フォーラム委員会、包装懇話会幹事会、各種セミナー企画委員会、他
 - (展 示 会) 東京国際包装展実行委員会
 - (調査研究) ISO/TC122 委員会、JIS 委員会、包装統計委員会(12 月)他
 - (出 版) 月刊機関誌「包装技術」編集委員会(毎月)

- ②関西支部 役員会 5月29日(木)、運営委員会 8月26日(火)・3月6日(金)
生活者包装研究懇談会実行委員会(年2回/6月・2月)検討中
- ③中部支部 役員会 5月28日(水)、運営委員会(年2回/9月・3月)
研究例会テーマ検討作業部会 12月(予定)
- ④西日本支部 運営委員会 上期と下記に個別連絡にて報告
- ⑤北海道支部 運営委員会 5月・10月
- ⑥東北支部 運営委員会 5月・9月 WEB・3月

第3. 行事・その他の活動

1) 行事

- (1) 第14回定時総会 6月13日(金) 如水会館
- (2) 新年会

東京本部	2026年包装界合同新年会	1月7日(水)	東京會館
関西支部	2026年新春会員交流会/講演会	1月23日(金)	大阪俱樂部
中部支部	2026年新年賀詞交歓会	1月22日(木)	名古屋マリオットアソシアホテル
北海道支部	2026年新年賀詞交歓会/新春研究会	1月予定	ニューオータニイン札幌
東北支部	2026年新年名刺交換会/新春講演会	1月予定	江陽グランドホテル

2) 会員交流会・支部特別講演会

- 関西支部 総会 5月29日(木)
- 中部支部 総会 6月24日(火)
- 西日本支部 総会 8月
- 北海道支部 総会 6月、IPP 合同親睦会 7月、会員交流会(新包装管理士) 11月
- 東北支部 新包装管理士を囲む会 11月

3) その他の活動

- (1) Web サイトによる最新情報の提供 ホームページ定期更新 12回ほか逐次情報発信
協会公式ホームページ、展示会専用ホームページ、SNS(facebook)
- (2) E メールによる協会活動内容の国内配信 J P I メールマガジン 12回
- (3) J P I 関連団体との連絡提携
日本包装専士会、日本包装管理士会、日本包装コンサルタント協会、
技術士包装物流会、日本包装学会、日本MH協会 他
- (4) 行政機関要請への協力と連携、研究機関、消費者団体、市民団体等との連携
経済産業省、厚生労働省、農林水産省、中小企業庁、消費者庁、東京都、
横浜市、福岡県循環推進課
(地独)大阪産業技術研究所、兵庫県工業技術センター、
あいち産業科学技術総合センター 他
- (5) その他
要請内容について随時判断